

R18
Adult Only



もし、あの時…



正直に想いを
伝えていたなら…



未来は変わっていただろうか…

おまえが
好きだ…





ヒルダ様
直々のご配慮で
あれはお断り
するのには
難しい
だろう…

だが…私は…



え……？



できる事なら
これからここで
共に暮らしたいと
思っている

だから…
ワルハラ宮での
話は考え直し…



…!?

す…すまない！
泣くほど嫌だった
のなら…

違うの…





こんな所じゃ
イヤよ……!

……それも
そうだな……

悪かった……

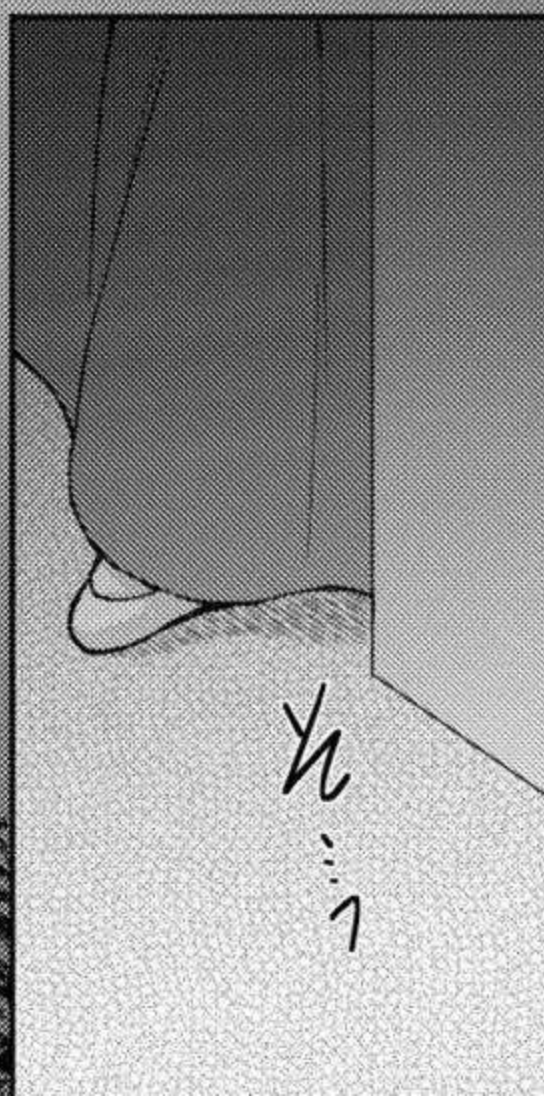
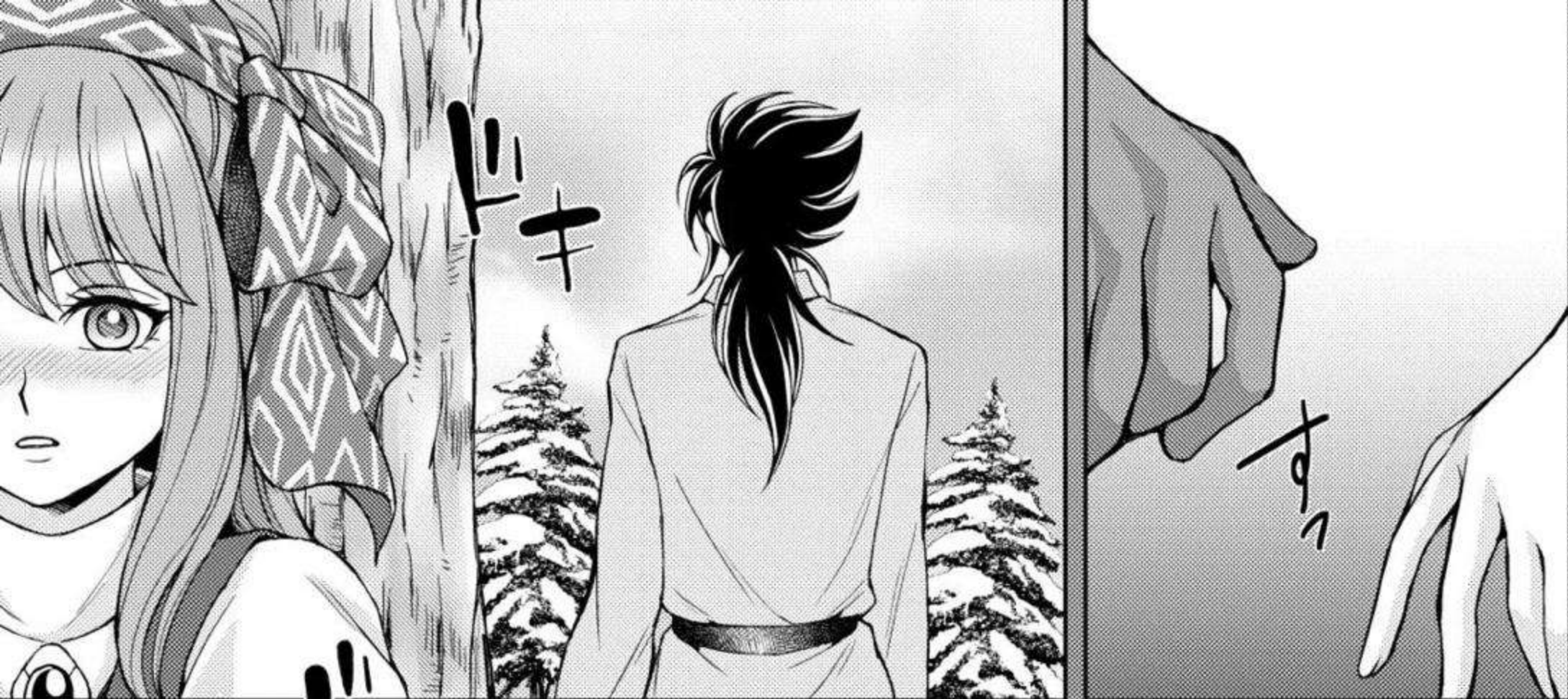
……!?

おやっ

今晚……私の
部屋においで

少し話を
しよう……

フ
×
no

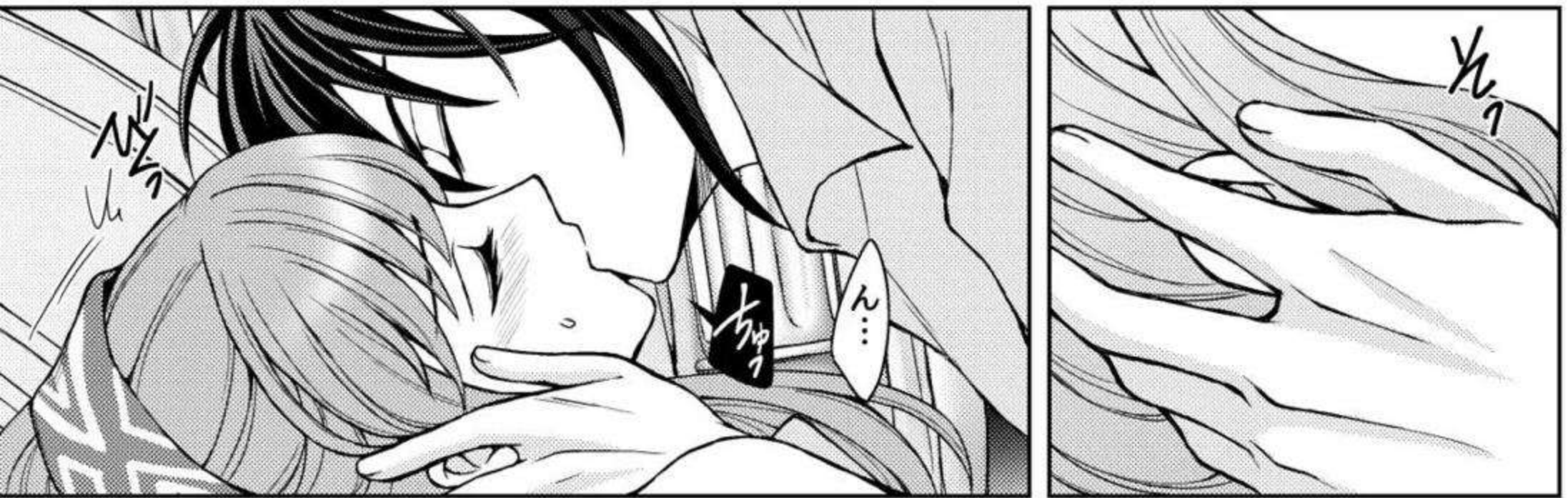






カチ





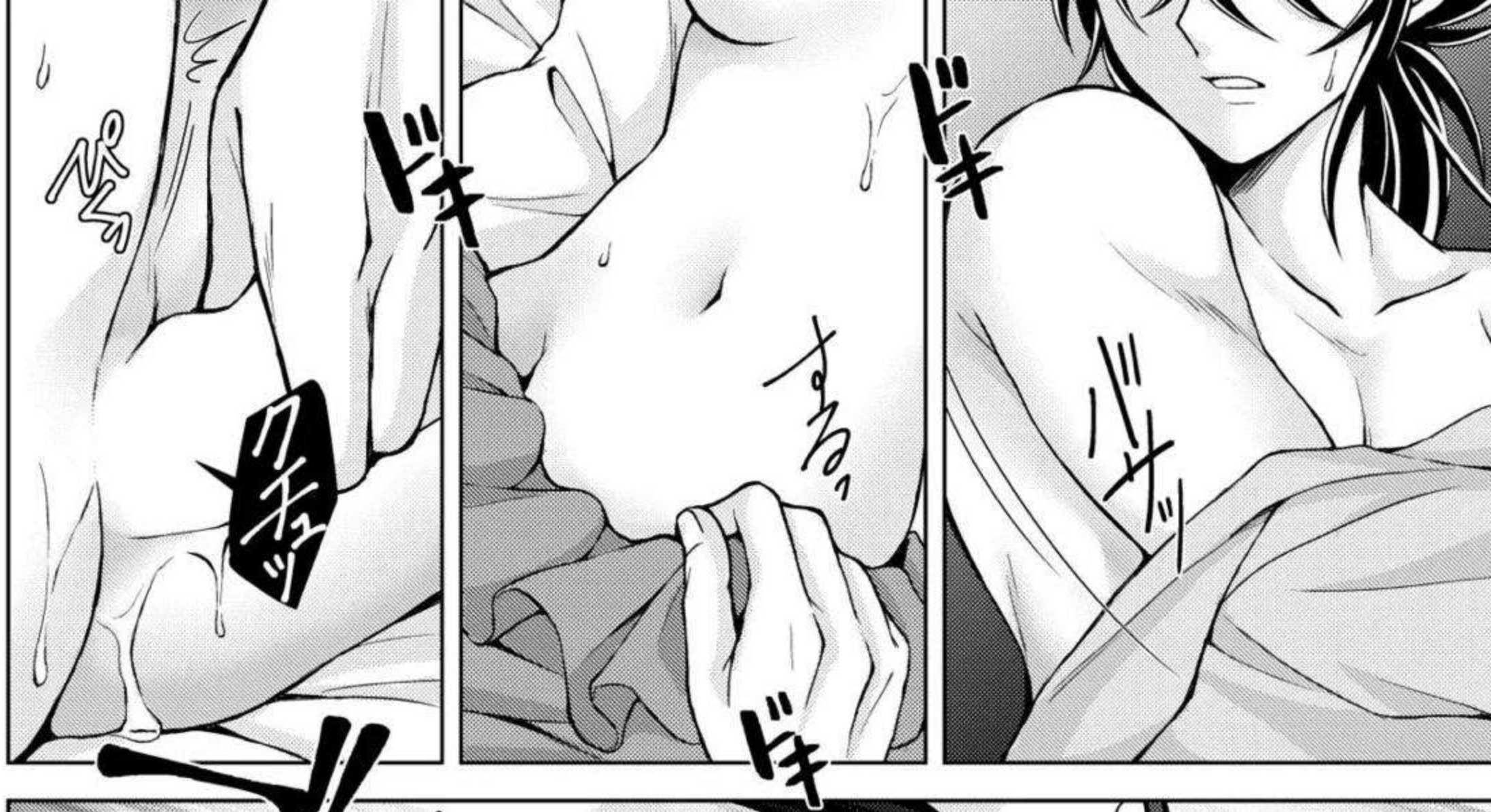


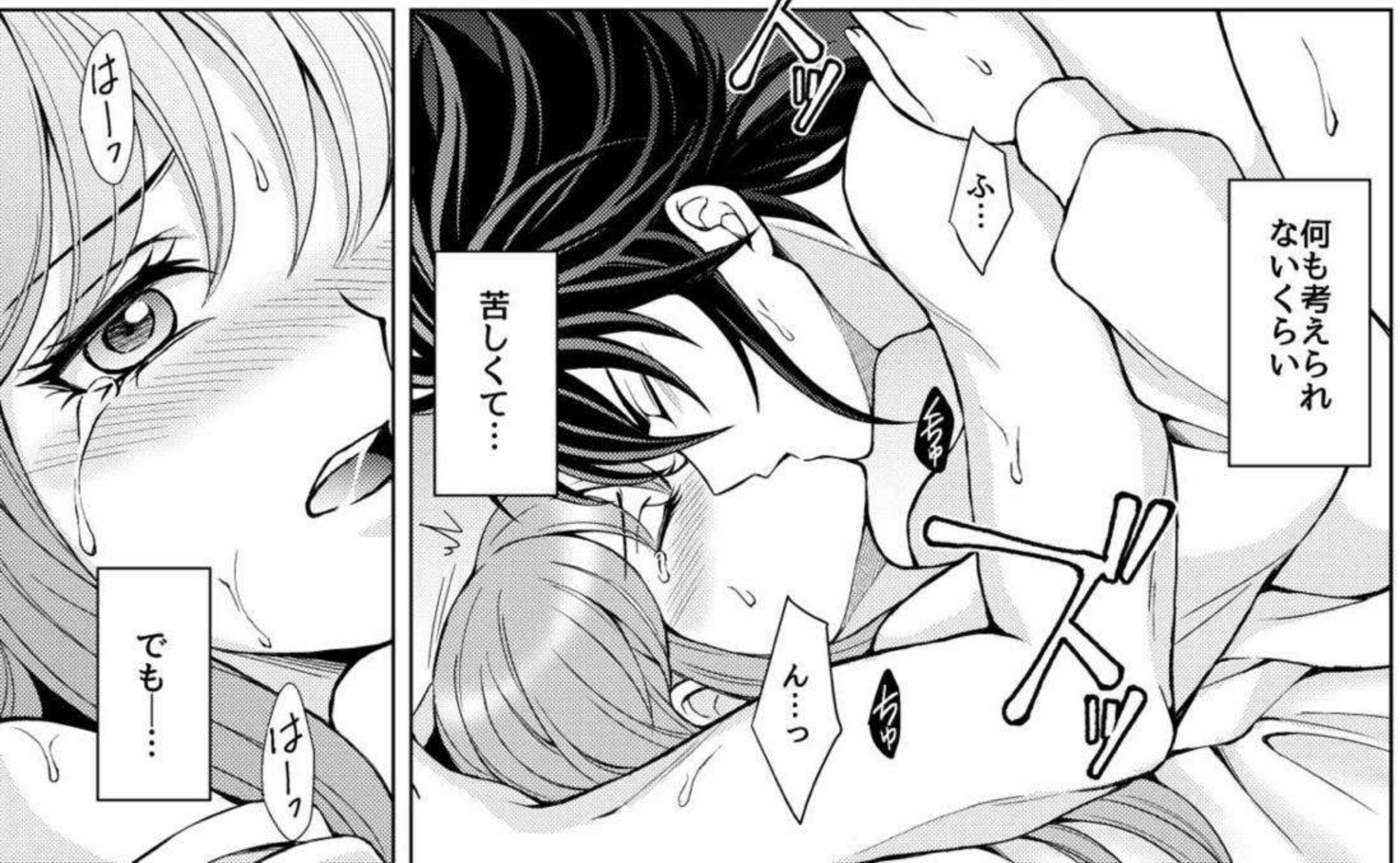






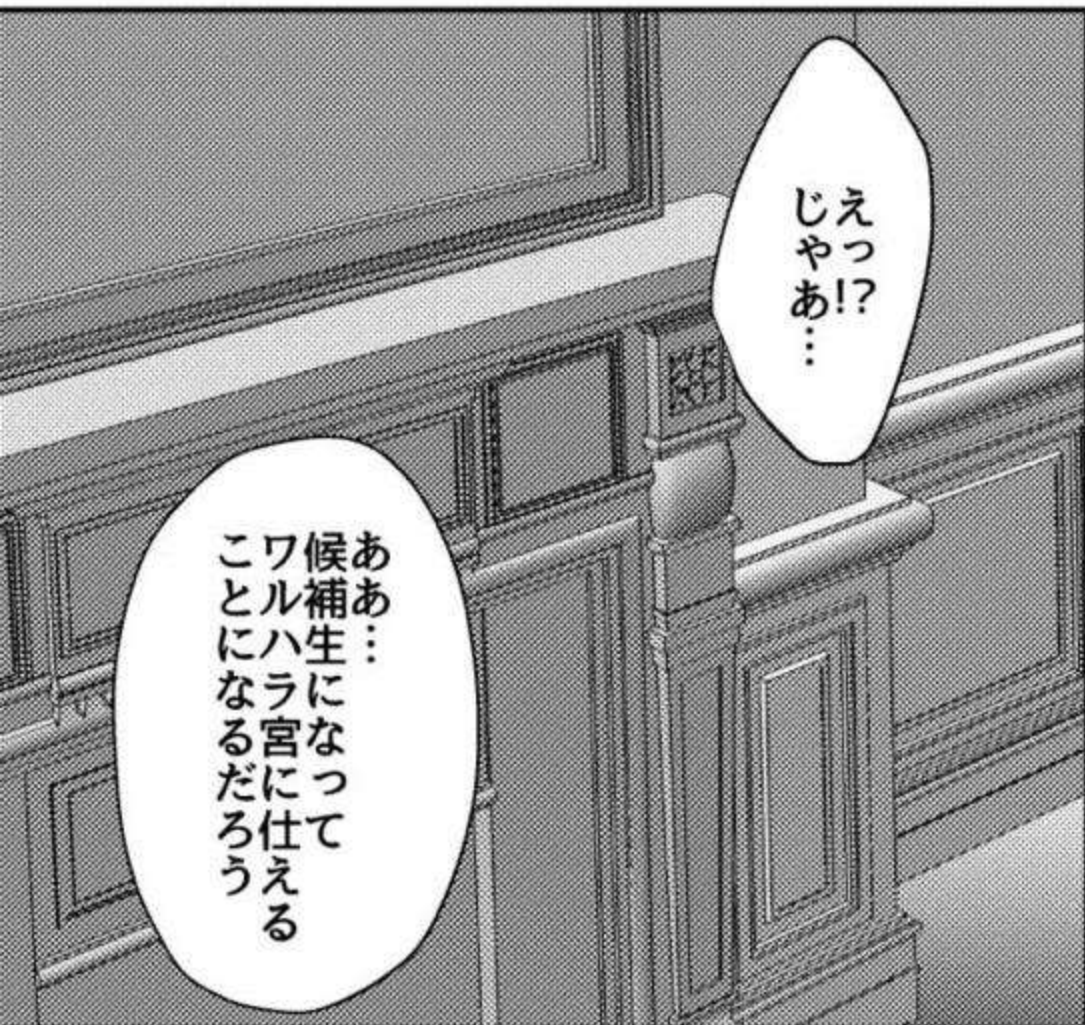
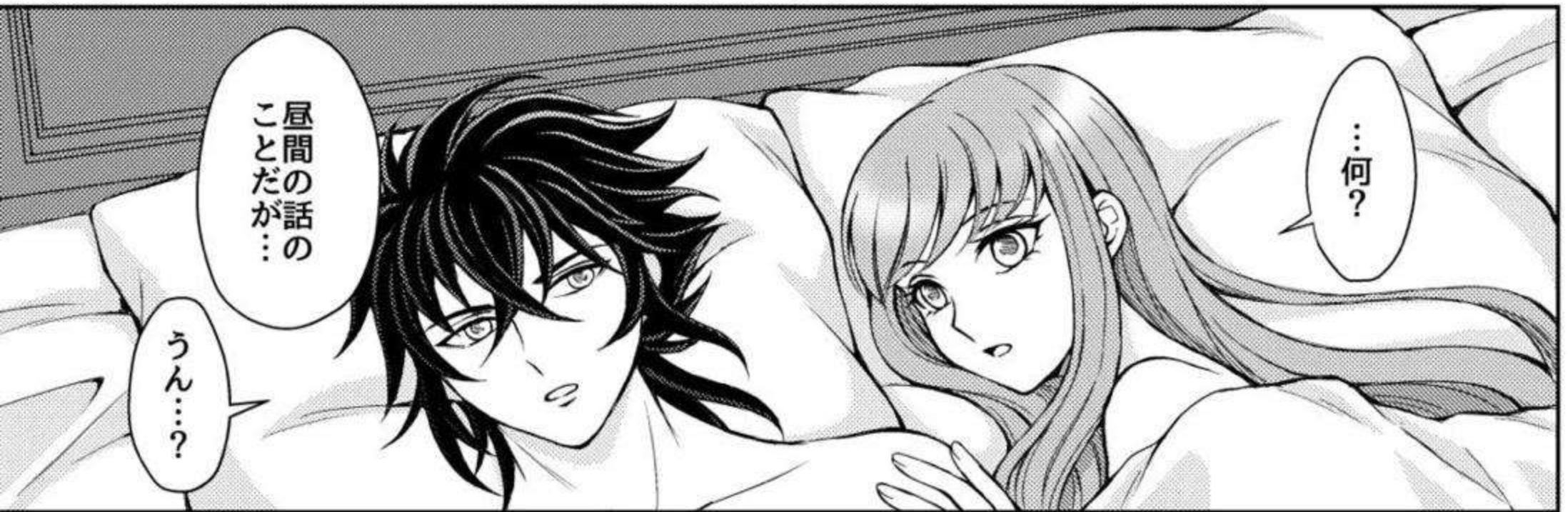
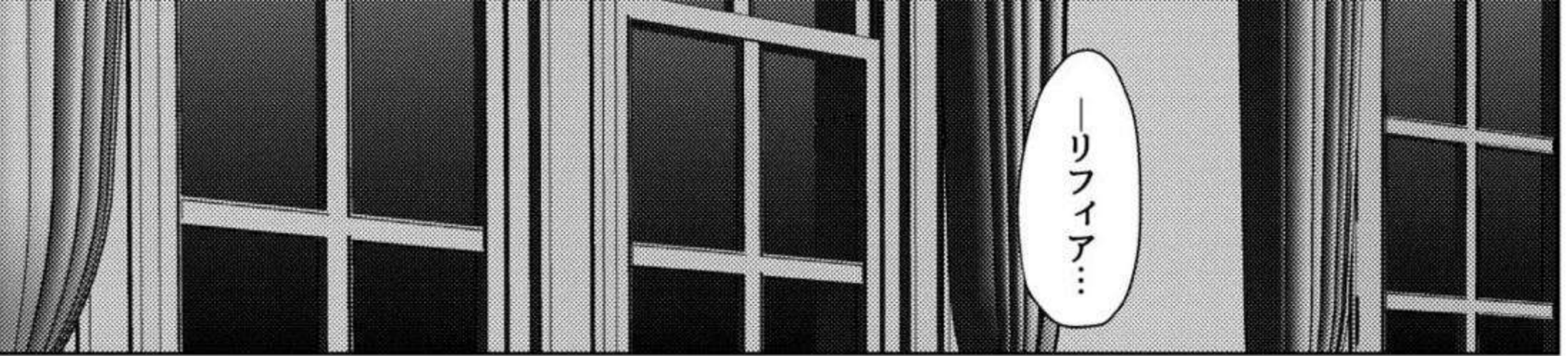








わたしの気持ちには
とても満たされて
いたの…





そんな側におまえの理由がえられる

とは言っても...

こんな不順な動機でなれると決まったわけでもないけどな

大丈夫よ!!

...!?



なれるよ! フロディならきつと...!!

何でそう思える...?

何となくだけど...

何となく...

立派な神闘士になれるの! 気がするの!

気がする...



でも...本当にアスガルドもヒルダ様も...

わたしのことも守ってくれる?



当たり前だ…

ずっと…おまえを
守っていくよ



どうかずっと
側にいて…
わたしを
離さないで…



そんなささやかな願いは
時代の流れによつて
かき消されていった…

神に与えられた
災いの指輪がし

アスガルドは激動の
時代を迎える

形を失った後も
指輪はその呪いを
増幅させ

最後の所有者と
なつた者はその身体
を蝕まれていった…

ヒルダ様が
病に伏された

アスガルドの情勢は
めまぐるしく変化し

人々の信仰も
移ろいでいった

そして……





フロディは
神闘士に
任命され
た



あれほど
願っていた
ことなの……

わたしは
それを
喜ばな
かつた

これは本
正しに
なにか
この違
何なの
か……

数日前

—え……!?

わ……
わたしが……
ですか……?



わたしにしか
出来ないこと
がある…

—そうヒルダ様
に告げられた…

何もない
—非力なわたしに
—体力も持たない
—というのがある…



リファイア…!?



はっ

…!?



式典で姿を見かけ
なかったが…

どうかしたか？

…フロディ

えーと…その…
少し気分が悪くて
途中で退席させて
もらったの…

大丈夫
なのか…!?

え…ええ
もう平気よ

そうなら良いが…

この姿をおまえに
一番見せたかった
からな…残念だ



分かって
くれる…

わたしは…

アンドレアス…さま…
のやつていることが
正しいとは思えないの

神騎士になれたのは
とても誇らしいこと
だと思ふの…でも…

フロディなら
きつと…

ねえ…
フロディ

何だ…?



お願い：
彼に加担：
しないで！

あなたの力は
正しいことに
使ってほしいの！

どういう事だ…



何を言っているは！？
アوندレアス様は！？
オードレーン様の
地上代行者を任された
偉大な御方だぞ！！

あの方の行いが
間違っている
とでも…！？

そのうえ
オレに神闘士の
地位を捨てると
いうのか！！

あなた達は
騙されて
いるのよ！



おまえが何を
言っているのか
分からない…

神闘士になることは
オレたちの願いでも
あったはず…



このままでは
アスガルドが
滅んでしまうの…

分かって
フロデイト！

違うわ…

わたしは願った
のじゃないこと
じゃない…！



…はい？

今はヒルダ様の
侍女をしている
娘だ…

確か君とは
幼少の頃かは
付き合っていた
が…

—リファイア

…と言ったか

え…ええ…
それが何か？



私はどうやら
彼女に疑われて
いるようでね

『アスガルドを
滅ぼす厄災』などと
周囲に触れまわって
いるそうだ…

…!?



そうですか…
しかしこのまま
見過ごすわけにも
いかならないよう

君には彼女の
動きを監視して
もらいたい

監視…!?
そこまで…
せずとも…

もし…



仲のいい君なら
何か聞かされて
思いつくのでは
ないだろうか…

い…いいえ!
そのようなこと
は何も…!



彼女が
謀反を起こす
ようなことが
あれば…



その時は…!

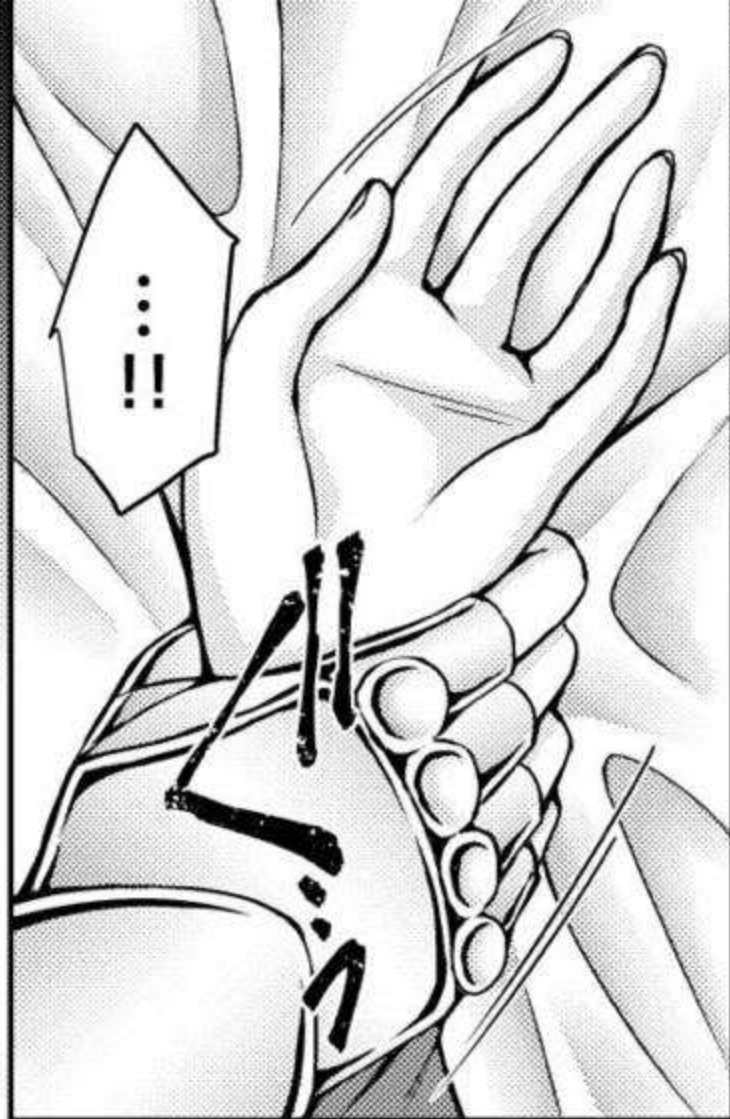
分かりますね?
フロディ…



お…仰せの
ままに…







おまえを守ると
約束したのを
忘れたか…？

私から
離れるな

ずっと私の
側にいろ



私……

……!!



違う……



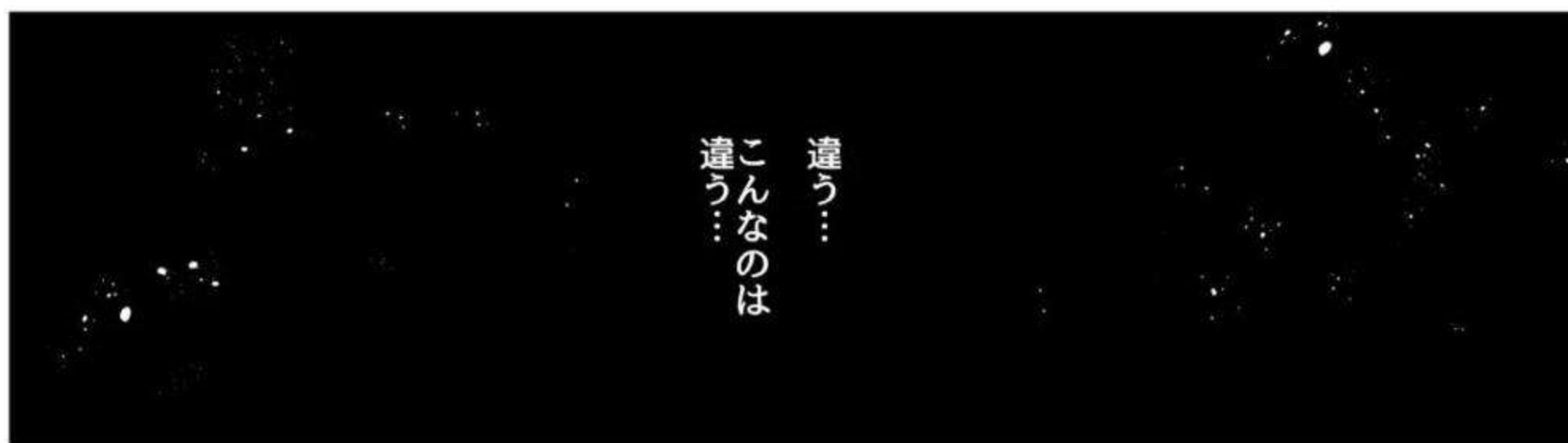
や……

ん……

ん……



違う……!





おまえを
守れるのは
私だけだ...

わたしはあなたを拒めなかった...

わたしに
できることは
もう……



何もないの？

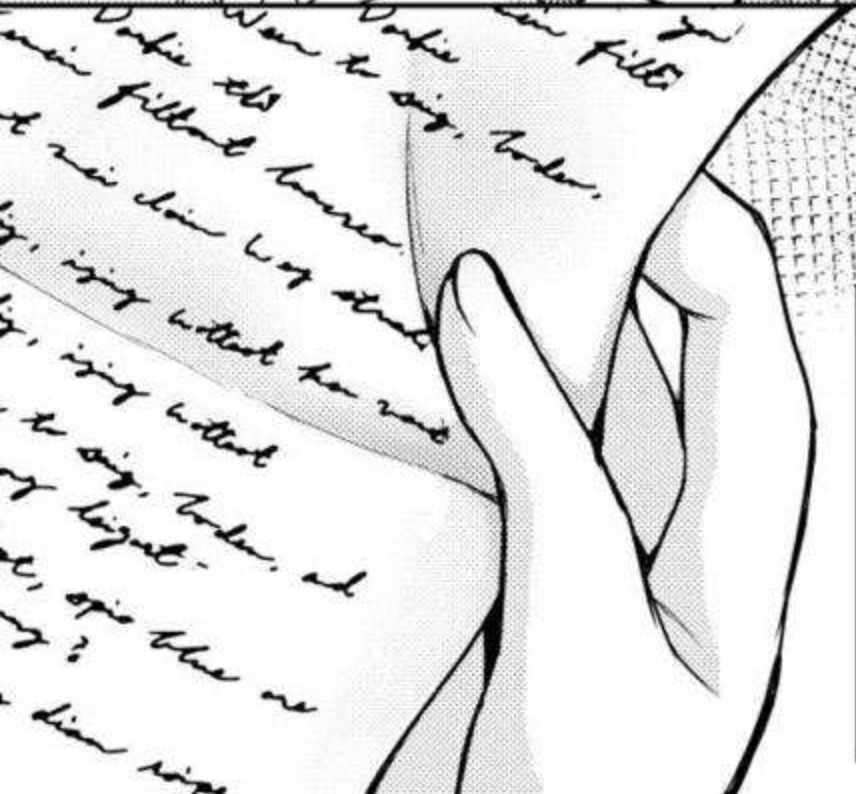
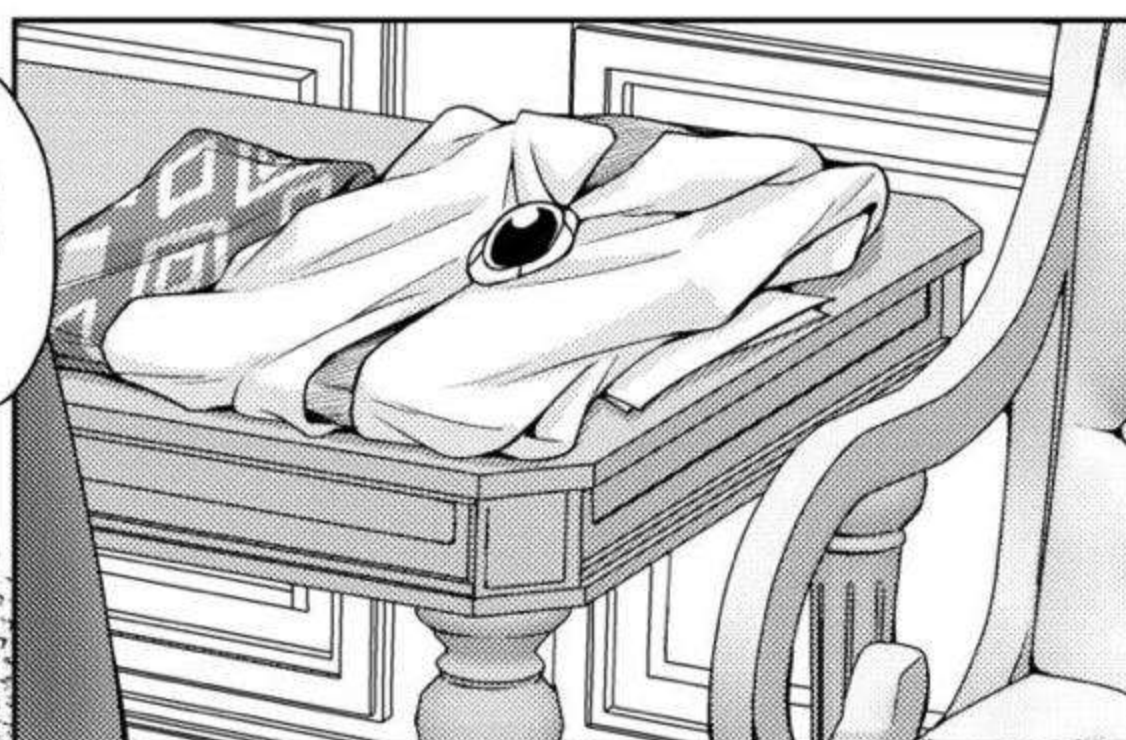




フロディ…
いないの…？



手紙…？



ただ直接的な表現
ではないけれど
わたしは理解して
しまった…

フロディの
言葉に
嘘はない

そこには対する
わたしは今
までいきさつ
がまてに書か
れた簡潔な



わたし
自分
は人質
なのだ
！…と

彼の「正義」を
歪めてしまった
のはわたしだ…

このまま守られて
いるだけでいいの？

彼はそれが間違いだと
気付いてもわたしを
守ろうとするだろう

このままで
は駄目だ…

わたしは
どうしたら
いいの…？

わたしに何が
出来るの…？

アスガルドの未来を—…
これはあなたにしか出来ないことなのです…

…ヒルダ様

わたしにも

出来ることが
—…あるの？



オーデイン様

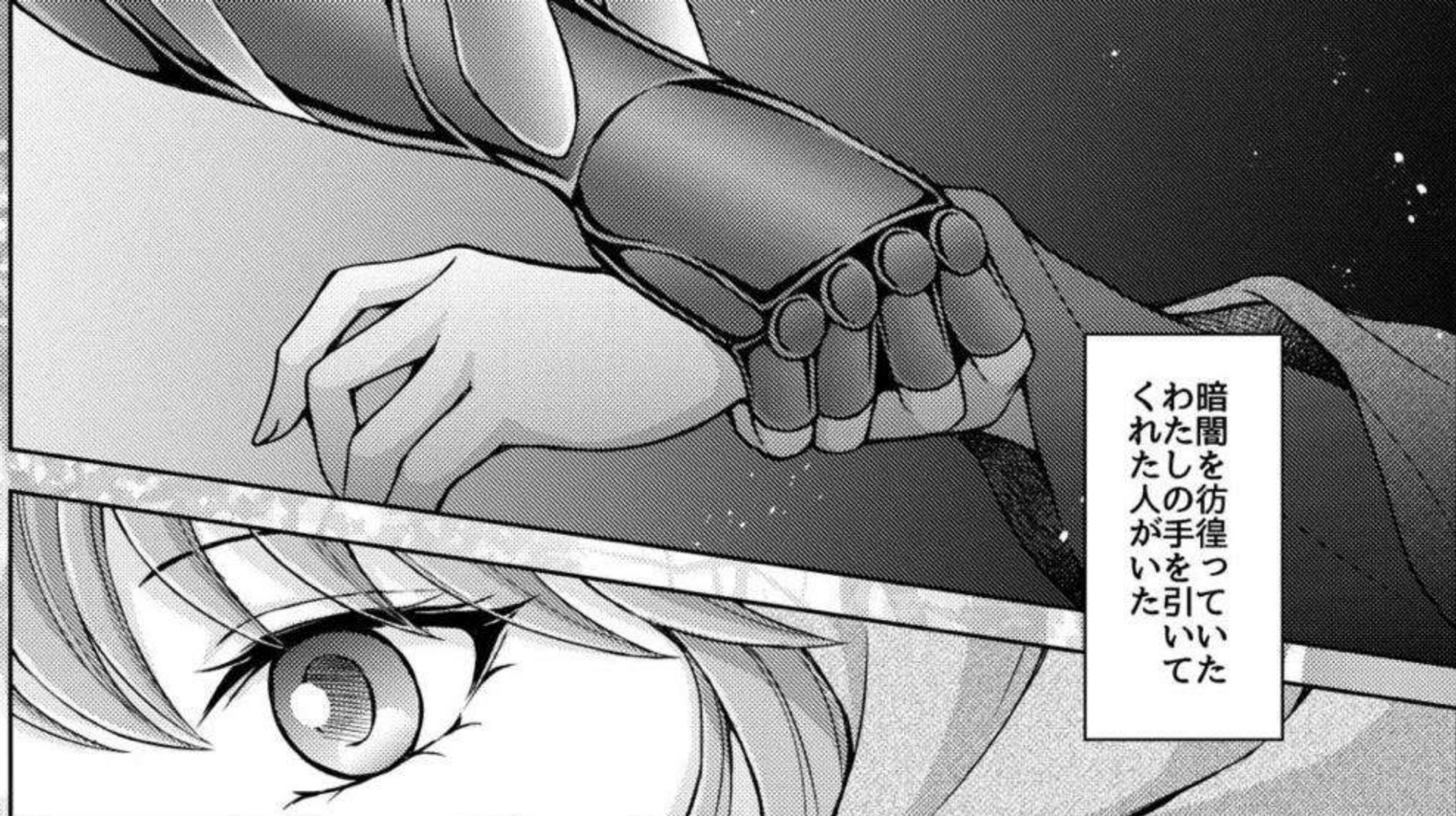
どうかわたしを
お導きください…



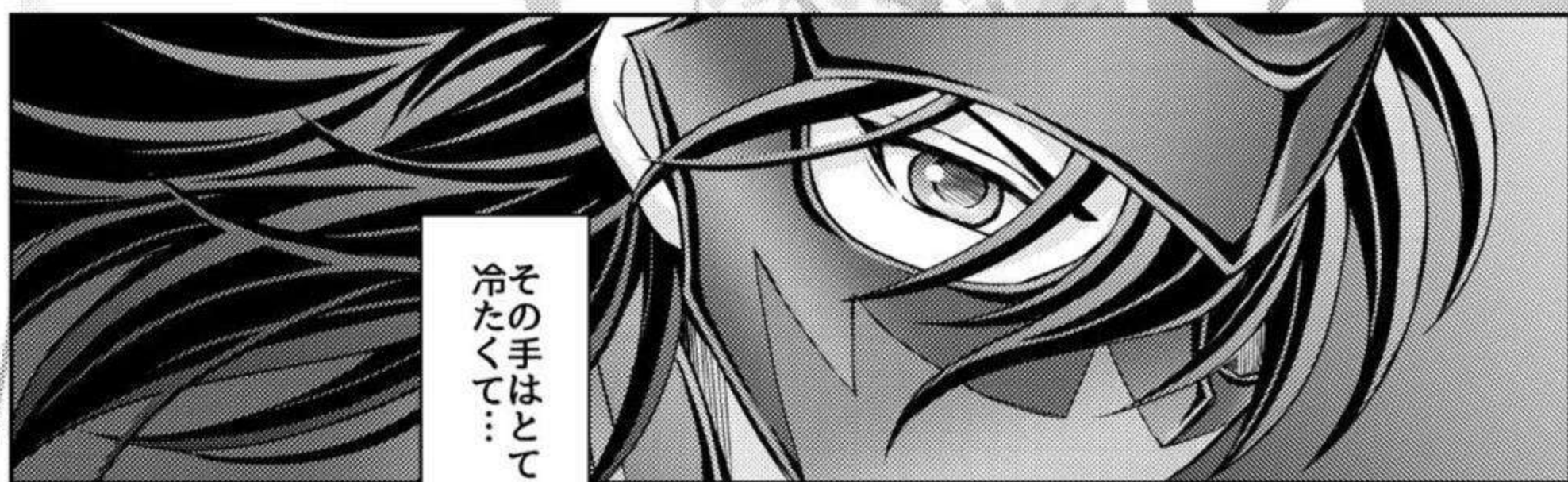
これより後^{のち}
わたしは記憶を
一部欠いていた



わずかに残って
いたのは……



暗闇を彷徨って
わたしの手を引いて
くれた人がいた



その手はとても
冷たくて……

フロディではなかった
のは確かだった……



お願い…わたしと
一緒に闘って…!!

わたしは自分の
信じる道を
進むだけ…

あなたがそう
したように…



ねえ…
フロディ



できるなら
あなたの側に
いたかった…

でも…
わたしは…

リファイア…

なぜ私の元を
去った…





側にいれば私が
守り切ると約束
しただろう!?



フロディ…



わたしは自分の
成すべきことを
するだけ……

あなたに
守ってもらわな
くても大丈夫よ

—そう… 未来は変わらない